

1. 緒 言

石油を粗原料とする合成高分子がさらに新しい進展をみるために多くの試みが行われると考えられるが、本研究は伝統的な情報、特に古代より多く使用されてきた高分子材料に関する伝統情報、民俗学的情報を整理・解析して合成高分子および天然高分子材料研究に資する目的で行ったものである。伝統情報・民俗学的情報は近代自然科学と異なり、事実の認証、すなわち材料研究における実験データに相当するものが伝承や慣習の事実の整理に当たる。また、現代社会はこれまで長い期間大きく変化することなく続いてきた日本社会の種々の伝統を捨てつつあり、その過程で多くの伝統情報は消滅しつつあるという認識のもとで研究を進めている。

2. 伝統情報を応用する解析方法

伝統情報は自然科学的手法によっては得ることができず、民俗学、文化人類学などの人文科学あるいは社会科学的手法を応用する必要がある。すなわち、伝統材料の情報は、ある民族が社会・団体などの長い歴史の中に培ってきたもの、あるいは伝えてきた信仰、風習、制度、思想、学問、芸術などであり、特にそれらの中心をなすのは精神的のありかたであって、物質的な解析のみではない。また、伝統情報は、伝え聞くこと、ないし伝え受け継ぐことによって存在し、その典型的な物として古くから「しきたり」が存在する。すなわち、制度・信仰・習俗・口碑・伝説などの総体の内、受け伝えられてきたこと、もしくはその伝えられた事柄そのものである。

3. 大麻の伝統情報

3.1. 植物学における分類

「大麻」はクワ科の1年草で、雌雄異株の双子葉植物であり、その学名は *Cannabis Sativa L.* (カンナビス・サティバ・エル)、成長すると約110日間で高さ3~4mに達し、茎の直径は2~3cmとなり、原産地は中央アジアと考えられており、現在は世界各地に分布している。また、大麻の他にも亜麻、苧麻、マニラ麻など日本名で「麻」のつく植物は幾つか知られているが、それらの名称は日本の伝統的分類に基づいて命名されており、各々の植物間の近代植物学的な類似性は認められない。これに対して、伝統的分類では「繊維が採れる植物」という共通の特性によって「麻」名が付けられている。但し、古来より日本においては大麻が麻と呼ばれる一群の植物の内、もっとも古くから利用され、かつ頻繁に用いられたことから、単に麻と呼ぶ場合には、慣習的に「大麻」を意味することが多かった。

3.2. 材料としての一般的・歴史的情報

わが国では縄文前期の福井県三方郡鳥浜古墳から縄と編物、種子の発見がなされており、これが大麻が栽培されていた確証になっている。

大麻は1エーカー(約4000 m²) 辺り、木材よりも多くのセルロース(繊維素)を生出し、茎の外層部から取り出すことの出来る硬い繊維は丈夫で重要な用途に使われてきたが、ロープ、布などの用途の他にその強靱性、耐久性から、重要な書物、銀行券には麻紙が利用された。たとえば、1880年代まで世界で使われていた銀行券の殆どは大麻製である。羊皮紙に印刷されたものに比べ、文字にも紙にも劣化が見られない。医薬品としても人類は何千年に渡って、その効用を知っていたとされており、紀元前2800年頃とみられる中国の漢方薬の概説書『神農本草経』には便秘、リュウマチ、生理不順の治

療薬として挙げられているのを初め、インドの古代医学書『アーユルヴェーダ』(紀元前2000~1400年頃)には鎮静、冷却、解熱効果をもつ他、食欲を刺激し、消化を促すなどの効果があると書かれている。わが国でも戦前まで喘息やアレルギーの薬として一般的に知られていた。

3.3. 民間伝承による伝統情報

伝統情報では伝承を主体として整理を行うが、伝承にも様々な形態が存在する。かつては迷信などとも呼ばれた民間伝承、神話や歴史的逸話が祭祀や書物として残された伝承、あるいは地名や言語も多くの情報を得ることができる伝承の一つとみなすことができる。例えば、「クワバラクワバラ」という呪文に見られる民間信仰の意味は、「ここは桑の畠ですよ。天神様、あなたが祀られているところですよ」ということであり、桑畑、大麻畑(クワ科)には本来雷が落ちないという伝統的知見が含まれている。この知見は後に麻の蚊帳が作られる原因の一つとなり、「雷が鳴ると蚊帳に入りなさい」という伝承から判るように麻で作られた蚊帳には雷が落ちないとされていたことを示している。

3.4. 神社における宗教儀礼からの伝統情報

伝統情報は宗教的場面でより鮮明に発揮されるが、日本では神社において伝統情報が残されている場合が多い。特に神社ではしきたりが重視され、その内容の変化が少ないため伝統情報が多く残されている。例えば、伊勢神宮で頒布されているお札で「神宮大麻」があるが、この神宮大麻の「大麻」とは、もともと「おおぬさ」と読み、神々への捧げ物、あるいはお祓いの際にもちいられる木綿(ゆう)、麻などを意味し、神社で使われるお祓いの用具を指している。また、神社で使われるお札の中で、最も厳重なお祓いを行って授けられるお神札を特に「大麻」(たいま)と呼び、伊勢神宮の神宮大麻には実際に大麻の繊維も入っている。

このほか、伝統情報には言語伝承、地名伝承がある。

4. 考 察

以上の伝統情報から示唆される大麻の性能・機能として以下のものが挙げられる。

- 1) 強固で耐久性の高い繊維としての性質
- 2) 栄養価が高い
- 3) 雷よけとしての性質
- 4) 魔よけ・より代としての性質
- 5) 鉱物を含む地質との親和性・調整作用

また、1)と2)は現在の科学分析によって立証可能であるし、代替物の生産も可能で、3)から5)は伝統情報による解析によって初めて見える大麻の性質である。

日本人と大麻の関係は神社での伝統儀式で用いられる等、稲よりも古くから日本の風土や文化との結びつきが深く、「日本人の精神文化」と密接に結びついた素材である。現代の材料科学がこれまであまり研究をしてこなかった「大麻」の可能性を伝統情報の研究によって導き出せるのではないかと期待される。

参考文献

- 1) 深津正:『植物和名の語源』, 八坂書房 (2000)
- 2) 栃木県立博物館編:『野洲麻作りの民俗』, 栃木県立博物館 (2001)
- 3) 赤星栄志:『ヘンプがわかる55の質問』, 日本麻協会 (2000)
- 4) 山守博:『麻の知識』 大日本法令印刷 (1993)